

第4回岩槻駅周辺まちのあり方ビジョン 検討有識者会議

【資料1】第3回会議の振り返り

令和7年11月18日

さいたま市 都市戦略本部 未来都市推進部

分類	主な意見
地下鉄7号線延伸計画	埼玉スタジアムのアクセスについて、プラスで15分歩くということは書いておいたほうがいい。
ビジョンの構成と検討イメージ	ビジョンの実現がいつ頃なのかを示すとよい。
施策の方向性①	他都市の事例について、岩槻の実情に沿った事例や写真を選定するべき。
	市民の方々にイメージを持ってもらうために、どんなサインを作るべきなのかを言及したほうがよい。その先に何があるのだろうと思わせるデザインにすることで歩きたくなると思う。
	広場の整備だけでなく、ワッツやクレセントモールといった既存のストックをどう利活用するか検討するべき。
	地下空間の整備や活用といった視点は入れたほうがよい。
施策の方向性②	住宅の制限の事例について、岩槻では住宅を禁止するのではなく、タワーマンションなどの住宅をどの程度、許容できるかを考えたほうがよい。
施策の方向性④	移動できる緑ではなく、恒常的な緑の設置のほうが適切ではないか。
	観光に交流の視点も含め、「観光/交流」と併記したほうがよい。
	岩槻のアイデンティティである、人形にかかわる歴史文化のストーリーは言葉として入れるとよい。
	どのように情報共有を進めていくか、エリアマネジメントと接続させるかを記載するべき。
施策の方向性⑤	オープンスペースの利活用だけで収益を確保することは難しい。他の事業も含め、持続可能な取り組みのイメージを考えていくことが必要。
将来像について	ターゲットをもう少し明確にするべき。
	人形博物館とにぎわい交流館のスペースも全体像の図に落とし、駅前と交流館の2つの広場を核とした2核構造とするのはどうか。
	ターゲットごとのニーズにどのように応えるかを将来像イメージに記載するとよい。
	将来像イメージに、交流館の周りがどんな感じになるかというようなイラストや、バスを降りた目白学生が駅へ行かずにまちなかへ向かうイラストなどがあるといい。
	市民の方が分かるような表現にしたほうがよい。
今後の進め方	地下鉄7号線を契機としたまちづくりであるため、鉄道開業後も続くという意識が必要。
その他全体	30代、40代の方を巻き込んで進めるべき。そのためには、普段は参加できない人たちが議論できる場をつくるなど、意見聴取の方法の工夫が大事。
	発信だと行政が一方的に発信するよう見えるので、市民と共に価値を創っていくというニュアンスを加えたほうがよい。